

報道関係各位

2022年11月30日

カリフォルニアワイン 2022 収穫レポート ～ 2022 年は高い品質のヴィンテージ ～



カリフォルニアワイン協会 (California Wine Institute、略称 CWI) は、2022 年のワイン用ブドウの収穫レポートを、以下のとおり発表しました。

州内のワイン生産者たちは、波乱に満ちたシーズンを経たのち、2022 年は高品質のヴィンテージになると期待しています。カリフォルニア州内にあるワイン産地の多くでは、労働者の日^(※)の熱波によって収穫期が早摘みと遅摘みに分かれ、収穫の物語がふたつ生まれることとなりました。州内各地で収穫が終わった今、ワイン生産者たちは、2022 年ヴィンテージは素晴らしい凝縮感と複雑さを持つ、記憶に残るワインになると予測しています。

※労働者の日＝レイバー・デー (Labor Day)。9 月の第 1 月曜日に定められている国民の祝日、2022 年は 9 月 5 日。

ノース・コーストでは、理想的な天候で生育期が始まり、初夏まで続きましたが、8 月下旬からの長引く猛暑により収穫が早まり、一部の品種では収量が減少しました。ローダイやシエラ・フットヒルズなどのワイン産地では、春先まで穏やかな天候が続きましたが、その後霜が降り、収量が大幅に減少しています。

今年の収穫時期はまちまちで、ナパ・ヴァレーなど例年より 1 ヶ月ほど早く始まった地域もあれば、収穫が長引いたパソ・ロブレスなどの地域もありました。ノース・コーストでは、早くも 8 月中旬に、一部の赤ワイン用品種を収穫したブドウ栽培家もいます。労働者の日の熱波により、複数の品種が同時に成熟した地域もあり、短期に集中した収穫期間中、ブドウ畑とセラーの作業員たちは終始

忙しく働くことになりました。この年はこうした紆余曲折こそありましたが、消費者は 2022 年ヴィンテージの素晴らしいワインを楽しむことができると期待されています。

カリフォルニアは米国全体のワイン生産量のおよそ 80%を占め、世界で 4 番目に大きなワイン産地です。カリフォルニアワインの 80%以上がサステイナブル認証を受けたワイナリーで生産されたものであり、カリフォルニアにある 615,000 エーカーのブドウ畑のうち半分以上が、カリフォルニア州の指定するサステイナビリティ・プログラム(カリフォルニア・サステイナブル・ワイングローイング認証、フィッシュ・フレンドリー・ファーミング、ローダイ・ルール、ナパ・グリーン、SIP 認証)のいずれかの認証を受けています。



©Justin Liddell, Destination Films

ワインメーカーとワイナリー・オーナーのコメント:カリフォルニアの生育期と収穫期について

「生育期の初期は、豊富な雨と春夏の素晴らしい天候に恵まれ、理想に近い状態でした」と、ナパ・ヴァレーのセント・ヘレナにあるダックホーン・ヴィンヤーズの醸造担当副社長、ルネ・アリーは語っています。労働者の日にはナパも熱波で記録的な高温となり、その後 9 月中旬には雨が降ったため、ワインメーカーたちは細心の注意を払ってブドウを選ぶ必要がありました。「2022 年は前ヴィンテージよりも少し凝縮したワインができると思われ、それは温かいヴァレー北部の AVA で特に顕著でしょう」とアリーは述べました。「私たちのカベルネ・フランとプティ・ヴェルドは過去最高クラスの出来栄で、シャルドネは快活でバランスが良く、焦点が定まっています。成熟度合いに幅があったことを考慮すると、2022 ヴィンテージは早く摘んだ果実と遅く摘んだもののバランスを取りながら、ブレンドを行うことが重要になるでしょう」。

ナパ・ヴァレーのシルバー・オークとトゥーミー・セラーズでは、収穫が猛烈なスピードで進みました。穏やかな夏の後、熱波が収穫を大いに加速させ、全体として 15%から 20%の収量減になりました。ただ、気温が下がってからは、ゆったりとしたペースで収穫が続けられました。「凝縮感があって力強い、相当に強靱なヴィンテージになると思います。品質面では、すべての品種が素晴らしい出来栄でした」と、ワイン生産担当副社長のネイト・ヴァイスは述べています。特にロシアン・リヴァー、アンダーソン・ヴァレー、サンタ・ルシア・ハイランズのピノ・ノワール、そしてメルロとカベルネ・フランに感銘を受けたそうです。「品質の高さは桁外れです」。

セント・ヘレナのアルファ・オメガと、セントラル・コーストのサンルイスオビスポのトロサで醸造家兼業務執行役員を務めるロビン・バゲットは、収穫開始日の幅が大きいことを指摘しています。「アルファ・オメガでは、一部の畑で収穫が、昨年より丸 4 週間も早まりました」。労働者の日前後の厳しい暑さのため、ブドウ畑のスタッフは、迅速かつ戦略的に収穫を行う必要があったといいます。「早

めに摘んだ果実は色が濃くアロマが複雑で口あたりが固いのですが、一方で猛暑の間ブドウ樹に残されていた果実の方は、より熟度が高く、柔らかいタンニンと素晴らしい風味の凝縮感があります」と、バゲットは述べました。「私たちのカベルネ・ソーヴィニヨンの品質は全体的に非常に高く、強い骨格とテロワール由来の特徴を備えています。プティ・ヴェルドやマルベックも非常に良い出来栄でした」。乾燥した冬の後に迎えたトロサの収穫は、猛暑の前と後という、ふたつの明確な段階に分かれました。労働者の日までは単一畑のブドウが安定したペースで収穫され、その後、38℃を超える暑さの中で収穫期間が縮まりました。収量が約30%減少したことが成熟速度に影響し、すべてのブドウが一度に完熟することとなりました。「猛暑の前に持ち込まれたものはすべて有望ですが、猛暑の後に持ち込まれたロットについては、最良のものを選び出す必要がありました」と、バゲットは指摘しています。



ソノマ・カウンティのグレン・エレンにあるベンジガー・ファミリー・ワイナリーは、10月中旬前に収穫を終え、これは2004年以来最も早い収穫終了になりました。「記録的なことです」と、ベンジガーの醸造担当役員であるリサ・アマローリは言います。「熱波の後に雨が降ったことで、一度上がった糖度が、雨の後に元に戻る鞭打ちのような現象がありました」。生育期はムラがなく穏やかで、健全な樹冠を得ることができました。労働者の日に、このワイナリーのソノマ・コーストにある地所で気温が43℃に達するまでは、早期収穫の兆しがありました。酷暑のため、いくつかのブロックでは糖度が高くなり、収穫のペースが速くなりました。9月の雨はブドウ樹をリフレッシュさせ、残ったブドウをもう少し長く樹にぶら下げておくことを可能にし、安堵のため息をもたらしました。「ソノマ・カウンティの白ワイン品種はすべて素晴らしい出来栄で、酸のバランスがちょうどよく、とても風味豊かです」とアマローリは述べました。「ピノ・ノワールとカベルネ・ソーヴィニヨンの畑では、収量が少ないとはいえ、良い年でした。マルベックとカベルネ・フランについては、収量は十分で、バランスがとれていて、フルーティです」。

ノース・コーストとセントラル・コーストのいくつかの地域に畑を持つ、ソノマ・カウンティはサンタ・ローザにあるジャクソン・ファミリー・ワインズでは、多くの土地で通常より2週間ほど早く収穫を開始しました。ワインマスターのランディ・ウロムは、このヴィンテージについて「記憶にしっかりと残るワイルドなもの」と総括しています。「熱波で収穫が早まったところもあれば、逆に遅くなった例もあります」とウロムは述べ、猛暑の間、ブドウ樹が身を守るために活動を停止し、結果として果実の成熟過程が遅れることもあったと指摘しました。「原産地、ブドウ畑の方位、水分供給状況によります」。9月に大雨が降りましたが、雨の前にブドウ樹が健康だったため、灰色カビ病は問題になりませんでした。ウロムは、2022年の果実の全体的な品質に満足していると語ります。「アンダーソン・ヴァレーとロシアン・リヴァーのピノ・ノワールは特に良さそうです。モンレー・カウンティのシャルド

ネとピノ・ノワールも同様です。ソーヴィニヨン・ブランは予想以上の収量となり、レイク・カウンティではこの収量の多さのために、果実が完熟するのが10月までずれ込みました。これも初めての経験で、このことは一生忘れないでしょう」。

ローダイとクラークスバーグのワイン生産者は、4月の霜害で収量が激減するなど、この年困難に直面しました。「デルタ北部とクラークスバーグのソーヴィニヨン・ブラン、シャルドネ、ピノ・グリージョの一部の畑は全滅したと思っていましたが、結果的に大丈夫でした」と、アカンポにあるランゲ・ツイング・ファミリー・ワイナリー・アンド・ヴィンヤーズのブドウ栽培担当副社長、アーロン・ランゲは述べました。これらの品種では、通常収量の約25%しか収穫できませんでした。春の天候が変わりやすかった上に季節外れに暖かく、その後は涼しく風の強い状況が続いたため、ジンファンデルやその他の繊細な品種では、花ぶるいやミルランダージュ(無核硬粒)が生じましたが、収量は平均程度でした。労働者の日の猛暑は、収穫予定と収量の両方に影響を与え、霜は白ブドウの成熟を遅らせました。「主要なワイナリーのほとんどで、樽貯蔵庫と発酵タンクのキャパシティがかなり逼迫していました」と、ランゲは言いました。「健康なブドウ畑はこの暑さの中でもかなり順調で、通常の発育の軌跡辿りました。白ブドウ品種については、猛暑の前にブドウ畑のスタッフがほとんどの果実を収穫したため、期待できます。一方、赤ワイン用品種については、大きめにした樹冠が暑さを減じ、日焼けを防いでくれました」。



同様に、モンレー・カウンティでも2022年、シーズン初期の気温変動と、色づき期および9月上旬の熱波により厳しい状況となりました。特にシャルドネとメルロでは、熱波により収量が減少したものの、9月の熱波はあらかじめ予測されていたため、ワイン生産者たちは先手を打って灌漑をすることができました。複数の品種が同時に成熟したため、収穫は平均より10日ほど早く始まり速く進みました。

「良い点に目を向けると、房と果粒のサイズが小さくなったことで、複雑さと力強さが大幅に増しました」と、ソレダードにあるシャイド・ヴィンヤーズで業務執行副社長を務めるハイディ・シャイドは述べています。「2022 ヴィンテージは非常に良い品質、場合によっては本当に卓越した品質であると見ています」。セントラル・コーストのパソ・ロブレスでは、収穫が早くから始まり、造り手たちは品質、タンク繰り、断続的に続くプロセスを管理するのに、知恵を絞る必要がありました。

パソ・ロブレスにあるホープ・ファミリー・ワインズでブドウ栽培担当役員を務めるスタジ・シーは、「困難こそありましたが、それでも私たちは未来を楽観していて、2022 ヴィンテージはパソ・ロブレスで最も記憶に残る年に匹敵する、素晴らしいワインを生み出すと期待しています」と述べました。

生育期は順調に始まり、霜の発生もほとんどなく、開花と結実の時期には温和な天候に恵まれたと、シーは話しています。6月時点での作柄予想は、干ばつが続いたことから平均をやや下回り、夏は労働者の日の週末までは、猛暑のない典型的な天候でした。労働者の日の週には高温が続いたため、ブドウ樹の活動が止まり、最後の色づきが遅くなりました。続いて季節外れの雨が降り、秋の暖かな天候がハングタイムを長くし、果実の成熟に役立ちました。8月上旬から10月末までという、この地域では異例の長さの収穫となりました。「畑とワイナリーの両方で一所懸命に働いたので、このヴィンテージが際立った品質になると楽観視しています」と、シーは述べました。

サンタバーバラ・カウンティはサンタ・マリアのミラー・ファミリー・ワイン・カンパニーでは、予定より1週間早く、8月8日に収穫を開始しました。このシーズンは、夏まで続く素晴らしい生育条件に始まり、その後、異常なまでの暑さが果実の成熟を加速させています。収量は平年を下回ったものの、果実の品質は高く保たれました。ブドウ栽培責任者であるグレッグ・オクレストは、「今年も乾燥した冬でしたが、ブドウ畑はうまく順応しました」と述べています。「最小限の降雨では、ブドウ樹が必要とする水を十分に供給できなかったため、補完的な灌漑を予定より早く開始しました」。3月第1週の均一な芽吹きのアとは、霜もさほどは降りませんでしたが、春の終わりの結実時期には例年になく風が強く涼しくなりました。夏は理想的な天候に恵まれ、38℃を超える日は数日しかありませんでした。7月の暑さは平年並みで、カビ病の脅威は最小限にとどまりました。「2022年は夏の気温が例年通りだったので、8月の酷暑が来る前に樹冠を十分に発達させることができ、恵まれたヴィンテージとなりました」と、オクレストは述べました。晩生の赤ワイン用品種は収量の面で申し分なく、特にカベルネ・ソーヴィニオンについては、丈夫で高温に耐えることができるため、傑出した結果を出しました。今年は房が小さかったため、色が濃く深く、品質も高かったと言います。

アマドール・カウンティ、カラヴェラス・カウンティ、エル・ドラド・カウンティ、レイク・カウンティ、リヴァモア・ヴァレー、ローダイ、メドシーノ・カウンティ、モンレー・カウンティ、ナパ・ヴァレー、パソ・ロブレス、サンディエゴ・カウンティ、サンタバーバラ・カウンティ、サンタ・クララ・ヴァレー、サンタ・クルーズ・マウンテンズ、ソノマ・カウンティの地域レポートを含む、2022カリフォルニア収穫レポート全文については下記リンクのページをご覧ください。

[2022年カリフォルニア州収穫レポートの全文\(英文\)をダウンロードする](#)

カリフォルニアワイン協会(本部・カリフォルニア州サンフランシスコ)は、1,000社を超えるカリフォルニアのワイナリー及びワイン関連企業から構成される非営利団体で、ワインの生産や流通や消費に関する政策的な提言を行っています。輸出プログラムにおいては、世界16カ国に事務所を置き、世界30カ国以上でマーケティングとプロモーションを実施しています。ワイン業界関係者・メディア・消費者向け試飲会の実施などをサポートしており、毎年195以上のカリフォルニアのワイナリーが当プログラムに参加、142カ国にワインを輸出しています。日本事務所は、カリフォルニアワインの普及促進、日本市場における関税、非関税障壁の監視などを目的に1985年に設立されました。www.calwines.jp

以上

この件に関する読者からのお問合せ先 カリフォルニアワイン協会日本事務所 E-mail : info@calwines.jp 電話番号 : 03-6629-3658	この件に関する報道関係者様からのお問合せ先 KONDO SAORI OFFICE 近藤 さをり E-mail : saori@saorikon.com 電話番号 : 080-7011-5747
---	--